

教 育 長 様

代表者 校 園 名： 大阪市立開平小学校  
 校 園 長 名： 赤銅 久和  
 電 話： 06-6203-4212 F A X： 06-6203-4404  
 申請者 校 園 名： 大阪市立開平小学校  
 職 名・名 前： 教諭・和田 吉雄  
 電 話： 06-6203-4212 F A X： 06-6203-4404  
 代表者校 園 事務職員名： 吉川 学聡

公印

## 平成 27 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1 研究コース：( ) 内は、いずれかを○で囲んでください。	
( <u>個人</u> ) ・ ( <u>グループ</u> ) 研究 ( <u>基礎</u> ・ ( <u>今日的課題</u> ) ) 研究コース	
継続研究：いずれかを○で囲んでください。	継続研究 2 年目 ・ 継続研究 3 年目
2 研究テーマ	
「ICT を活用した、個や集団に適した教材研究と、活用・共有できる学習環境の構築」	
3 研究目的：箇条書きで端的に書いてください。	
<p>○各教室で児童が自由に活用できる端末を用意し、情報活用能力及び内発的動機付け、自発的学習意欲を高める ICT 環境を推進する。</p> <p>○きまりを守って正しく iPad を活用することによる児童の規範意識の向上をめざす。</p> <p>○NIE 学習により高まりつつある思考力・判断力・表現力を育む言語活動及び、情報活用能力を、ICT を用いてさらに深める取り組みを継続する。</p> <p>○児童の発達段階や集団づくりに適した、かつ個に講じた教材研究及び教材作成をする。また効率的な操作活動を通して、自己の考えを整理できるような活用法を追求する。</p> <p>○Mac を用いて、iPad 管理を容易に行う MDM ソリューションを活用できる環境構築する。</p> <p>○iPad と Mac を連携して、電子教科書やレジュメといった教材作成 (iTunesU、iBook author など) をする。</p> <p>○学期に 1 回の公開授業を伴った校内研修を通して ICT 活用方法を共有する。</p> <p>○iPad の稼働率を高める環境構築 (普通教室及びなかよし教室への iPad・無線ネットワーク・ミラーリング環境の常設)</p>	
4 研究内容：継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。	
<p>21 世紀を生きる子どもたちは、その職業人生の中で 1 つ領域にとどまり続けるのではなく、多用な仕事を経験することが予想されている。次代を担う人材が身に付けるべきスキルを規定した 21 世紀型スキルにも記されているように、全世界的に知識重視の伝統的な教育から、高度な情報社会の中でいかに情報源にアクセスし、それをどのように解釈し適切に使用するか、というような能力の習得への転換が取り組み始められている。また、そのような社会を生きていくためには、様々な領域の横断的な理解に加え、課題を見つけ新たに学び直す能力が必要になると考える。</p> <p>本校の児童は非常に高い学力を有しており、各家庭においても個人で活用できる情報端末を有している児童がたいへん多い。そのため、必要な情報を入手するための技能的な面では高いスキルを有している。しかし、自ら課題を発見し、効果的にそれらをまとめられているかというと、必ずしも目的を達成するために活用しきれていない面がある。そのため、本校では、2 年間の NIE 教育の中で、新聞として自分たちの考えをまとめることや、ICT 活用としてタブレット PC を用いてマインドマップなどのツールを用いて考えをまとめていく学習を行ってきた。また、担当している学級では、自主学習の宿題を毎日課したり、児童主体での学級運営をめざした取り組みを行ったりすることによって、前述の力の向上を目指し取り組んでいる。これまでの取り組みの継続と、タブレットを用いた学習の取り組みとを組み合わせることで、今年度の研究テーマになっている「社会に参画する資質や能力を高めるための授業の工夫～船場に学び、人、地域とのつながりをめざして～」の学習における新たな ICT 活用の取組を学校全体として考えていきたい。</p> <p>さらには、ICT 活用率を高めるための取り組みも行いたい。昨年 1 年間 iPad を借用していたが、管理の面や持ち出しの面で制約が多く、準備にも多少の時間が必要であったため、特定の学級を除いては活用率が低かった。ICT 活用率を高めるためには、「いつでも」「簡単に」「共有して」使えることが第一であり、アップデートやアプリの導入も迅速に行われることが大切である。そのために、機器を容易に利用でき、容易に管理・更新できる環境構築についても取り組む。</p> <p>今、本校の子どもたちが必要とする学力は、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習をすること、他者と協働して課題を解決する協働的な学習をすることである。加えて体験的な学習を重視するとともに、思考力・判断力・</p>	

表現力などを育む言語活動の充実を図ることが欠かせない。さらには、各教科等との関連を意識した学習活動を展開することを踏まえた学習を行うことが大切である。

そこで、どの教科やどの取組に効果的であるのかを明確にして取り組むようにする。また探究的な学習は、次のスパイラルを描いて発展していくことから、課題設定後の「情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の過程を大切に、単元を構成するように考える。

○ICTを活用し言語活動の充実、情報活用能力を高める学習過程

- ①課題の設定…体験的な活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。
- ②情報の収集…必要な情報を取り出したり、収集したりする。
- ③整理・分析…収集した情報を、整理したり、分析したりして施行する。
- ④まとめ・表現…気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

ICT機器は、各教科・単元のねらいに即して、言語活動の充実及び情報活用能力を高めるための学習支援ツールである。これだけで言語活動を充実したりするというわけではない。また、ICT機器を使うこと自体が目的化してしまう点に配慮して、これからの社会を「生きる力」を身につけさせていきたいと考える。また、全国学力・学習状況調査の結果や日々の子どもの実態からも思考力・判断力を高める指導が必要であると考えます。

#### ◆ 研究内容のキーワード

言語活動、情報活用能力、教材研究、特別支援教育、iPad管理

5 活動計画：日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。

※ 研究内容に応じて、2年以上の計画を記載することも可（但し、支援は本年度分のみ）。

H.27 4月～3月 校内公開授業

H.27 7月～2月 学習参観

H.27 8月 校内研修会(iPadおよびMacを活用した教材作成方法について)

H.27 12月 校内研修会(iPad関連と教室環境との連携した活用方法について)

H.28 2月 全市公開授業

H.28 時期未定 大阪市教育研究会視聴覚部との情報共有

6 見込まれる成果：子どもの「生きる力」の向上、教員の指導力の向上をふまえて端的に記載してください。

- ・ICT機器を「いつでも」「簡単に」「共有して」使えることで、学校教員全体でICT活用を推進していくことができる。
- ・活用した教材や活用事例を共有化することで、校内の情報資産として活用することができる。
- ・学習参観や学習発表会、各種行事などで地域や保護者に対してICTを活用した取り組みを発信することで、ICTを活用した指導の効果を周知できる。
- ・教育研究会視聴覚部へ開平での取り組みを発信することで、全市的にも取り組みを共有することができる。
- ・歴史ある地域のフィールドワークで活用することができ、歴史的な地域の財産を活用した取り組みを行うことができる。
- ・これまでに取り組んできたICT・NIEへの取り組みを発展させることができる。
- ・常時使える端末を用意することで特別支援での活用方法の幅を広げ、発信することができる。
- ・一斉学習の進度についていくことが難しい児童に対しての、個に応じた指導の幅を広げることができる。
- ・アクティブ・ラーニング(AL)が実践できるよう教師一人一人が指導力を高めていくことが大切である。

7 成果の検証方法（客観的な指標により、必ず数値で示すことができる方法で記述する）

- ・全国学力・学習状況調査において、「全般」「学習状況」の各種項目の前年度比較
- ・校内教員の活用状況調査及び保護者アンケート
- ・児童の到達度調査及び意識調査（特別支援学級を含む）
- ・iPadの活用を通して規範意識を高め、児童アンケートの「学校の決まりをまもっている」の項目を向上させる。

8 研究発表の日程・場所（予定）

※ 今日的課題コースは必ず記載してください。

日程 平成28年 2月19日（予定）

場所：大阪市立開平小学校

9 代表校園長のコメント

当該教員は、大阪市小学校教育研究会視聴覚部に研究員として中心的なメンバーであり、これまでもICT関係の研究を中心に研究を深め、総研に向けた算数科の公開授業の実施や、ダイワボウ情報システム株式会社主催の『ピッケの作るプレゼンテーション』を活用したICT活用授業のコンテストで企業協賛特別賞を受賞する等実績をあげている。本校昨年度の研究『新聞を活用して言語力を磨き、情報活用能力を高める授業の工夫—NIE・ICTを活用して』においても、タブレットを取り入れた授業に取り組み、能力をいかに発揮した。指導法については常に向上心を持って取り組むことができ、新しい境地にチャレンジし開こうとする進取の気性に長けている。今後、本市教育の屋台骨を担う人材である。ぜひ承認いただき研究成果を全市に発信する機会を得たいと考える。

上記の内容を原則としてA4判2ページで作成し、平成27年4月24日までに大阪市教育センター「がんばる支援」担当まで提出してください。